

| プログラム | 学習活動 | 時間 | 備考 |
|--------------|------------------------|----|-----|
| 栄養所要量および栄養指数 | 家族の年齢・身長・体重・生活活動強度を調べる | 10 | HW |
| | OCR用紙の記入法の説明を聞く | | P使用 |
| | OCR用紙に記入する | 20 | |
| | 記入の確認を行う | 10 | |
| | 結果による考察 | 10 | |
| 献立表 | 家庭の食品群別摂取量のめやすを調べまとめる | 20 | HW |
| | 家族の食物の好みを調べまとめる | | |
| | 日常食の献立のたて方を学習する | 20 | |
| | 家族の日常食の献立をたてる | 50 | |
| | 食品番号のつけ方について説明を聞く | 10 | |
| | 材料の食品番号を調べる | | HW |
| | OCRの記入法の説明を聞く | 10 | P使用 |
| | OCRに記入する | 30 | HW |
| | 記入の確認を行う | 10 | |
| | ※ 結果をみて献立を修正する | 20 | |
| | 結果による考察 | 10 | |

図13 活用のプロセス

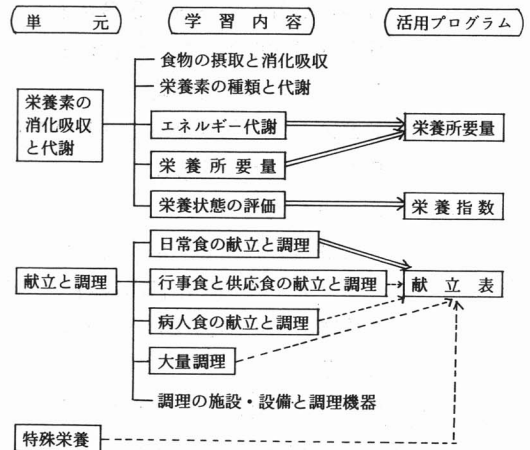
学習活動である。

- ~> の部分はセンターと学校の間でOCR用紙の発送・結果印字・結果返送が行われたことを示す。
- HWは宿題，Pはプリントを意味する。

(2) 学習内容への位置づけ

次に「食物」の学習内容とプログラムとの関連を図14で示す。

- 学習内容の分類は教育図書「新版食物」による。



⇒今回活用した内容-----活用可能な内容
図14 「食物」の学習内容とプログラムとの関連

(3) 活用後の反省

次に生徒の感想の一部を示す。

- 私はコンピュータを使った授業は初めてなので、どんなふうになって結果がでてくるのか楽しみでした。
- コンピュータにより、いろいろなことが調べられた。栄養指数では「太り過ぎ」になっていた。わかっていたことだがさらに自覚でき、今後の食生活の参考になった。
- 人間が調べると時間と手間がかかるのに、コンピュータを使うと簡単にまた見やすく結果がでてきて、勉強になった。
- OCRの用紙にいろいろ書きこむのはむずかしかったが、結果がでてくるまでがとても待ちどおしく、楽しみだった。
- 献立を作成して、自分ではこれで十分だと思っていた栄養が、コンピュータを通して返ってくるとまだまだ不十分だったり、多すぎたりしていて、バランスがとれていないことがわかった。だから日常の食生活ではもっと過不足が多いと思うので気をつけたい。

以上が代表的な感想である。OCR用紙に書きこみ、印字した結果を見るという、直接コン